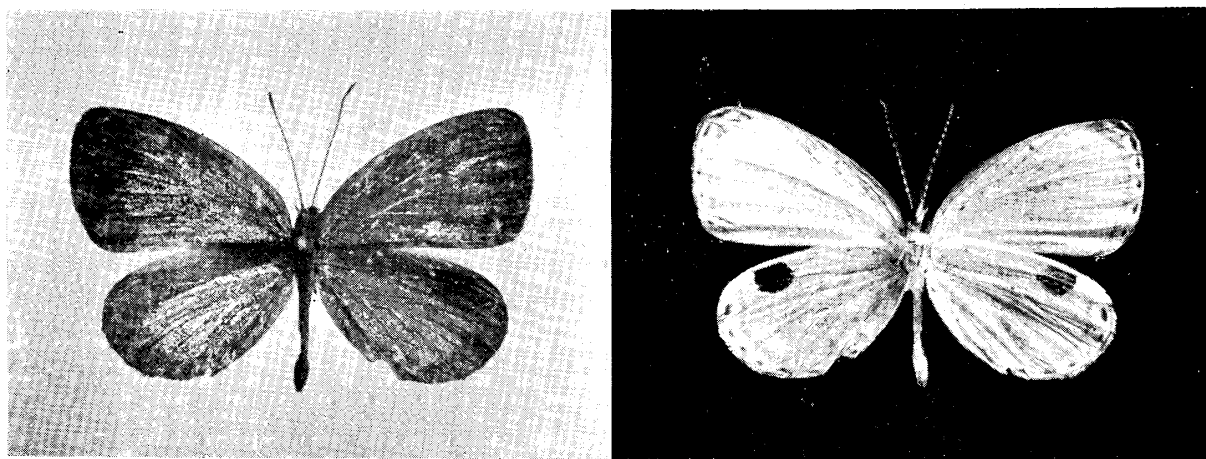
ウライクロシジミの対馬における発見

白 水 隆

An unexpected discovery of a tropical Lycaenid, *Pithecopis hylax* (FABRICIUS) in Tsushima Islands, Japan.

By TAKASHI SHIRÔZU

対馬産ウライクロシジミ ♂（左，表面；右，裏面） 1954年8月5日，浦田明夫氏採集
Pithecopis hylax (FABRICIUS), ♂, captured at Sasuna-mura, Tsushima Islands, on 5th August 1954, by Mr. AKIO URATA. (Left: upperside; Right: underside)

去る9月の初め，長崎大学医学部学生の浦田明夫氏は私の研究室に同氏が本年8月に対馬で採集されたシジミチョウ科の1種を持参された。標本を検するに疑もなく熱帯産として知られた *Pithecopis* の1種で，私は一応この標本を *Pithecopis hylax* (FABRICIUS) ウライクロシジミの一亜種と同定する。本種の既知分布の北限は FRITZE の記録した琉球の沖縄本島であって，このような熱帯性の種が対馬のような北地に棲息することは全く予想しないことであった。浦田氏の話によればこの標本は1954年8月5日，上県郡の佐須奈村（佐須奈の町より舟志に至る山道の略中間，舟志村との村境に近い所）で採集されたもので，杉林中に群飛する十数頭を発見，その中の7頭を採集されたという。ここに写真に示したのはその中の1頭（♂）で，浦田氏の好意によって私に贈られたものである。

今この1♂について翅の色彩と斑紋について簡記すると，翅表は黒褐色，前後翅共に翅の基部より大凡翅長の⅔のあたりまで，光線の方向により強く濃紫色に輝く部分がある。前翅の前・外縁及び後翅の前・外・内縁はこの濃紫光沢を欠くため黒褐色を呈するが，その幅は前翅では翅頂及び外縁部におてい極めて幅広く，前縁部ではせまく基部に向って細まる。後翅では前縁及び外縁において極めて幅広く，外縁部では後方に向ってやゝせばまり，内縁部では前・外縁部より遥にせまい。裏面は白色，後翅裏面前縁部の大形黒楕円斑が特に目立つ。前後翅共に外縁線は淡黒色，小点列状，前後翅共に夫々前部に強く後方に向って弱まる。その内側の亜外縁線は橙黄色，細い線状を呈し，前翅前端部において最も強い。開張（英式）25mm.，前翅長 12mm.

本種はシッキム，ビルマ，シャム，海南島，スマトラ，ジャバ，バリ，ニアス，ペラク，ボルネオ，フィリッピン等の熱帯諸地域に広く分布し，多くの亜種に分類されている。台湾にも産しこれはウライクロシジミの和名をもって知られているが，日本昆虫図鑑旧版(p. 999, f. 1970, 1932年，北隆館)のように台湾特産の独立種 *Pithecopis urai* BETHUNE-BAKER とするのは正しくなく，SEITZ, Macrolep. World, 9, p. 878, 1923 において FRUHSTORFER が取扱ったように *P. hylax* の一亜種とするのが妥当であると思う。沖縄本島からは FRITZE によって古

く記録されているが，その後沖縄本島を含む琉球列島では再発見の報告を見ず，その亜種の位置は未決定のまゝ残されている。

対馬に産するものは浦田氏の採集記録より判断するに疑もなく土着種であって迷蝶ではない。*Pithecopis* のように飛翔力の弱い局部性の蝶が迷蝶として飛来し，しかも同一場所で同時に7頭も採集されることは絶対に考えられない。私はこれを日本が熱帯性の気侯であった地質時代の残留種で，産地の局部的の環境に保護されて今日まで生存を続けてきたものと推定する。

尚，私の調べた対馬産の 1♂ は台湾産のものと顕著に相違する点があり，地理的にも非常にかけ離れているので，これが新亜種を代表していることは殆んど疑がない。しかし私の手許にある標本はあまり新鮮ではなく，又僅に1頭に過ぎぬので，新亜種の記載は将来，多数の新鮮な材料がえられてから公表したいと考える。

末筆乍ら本種の発見者，浦田明夫氏の御功績を特筆大書し，又私に標本を贈られ，その発表をゆだねられた御好意に深謝したい。

Résumé

On 5th August, 1954, Mr. Akio Urata collected a tropical Lycaenid, *Pithecopis hylax* (Fabricius) at Sasuna-mura, Tsushima Islands, Japan. This is the first record of the species in Japan, and the discovery was entirely unexpected, as this locality is situated much further north from Okinawahonto of the Loochoos, the northernmost known locality of the species. He found more than ten specimens of this species in *Cryptomeria*-forest in a hill, and collected seven specimens, of which a male is shown here. Undoubtedly the species is native in the Tsushima Islands, and cannot be regard as a migrant species. The form from the Tsushima Islands may represent a new subspecies, but only a single specimen is available for me at present, and the establishment of a new subspecies must be postponed until more materials will be obtained.

チョウセンアカシジミの生活史

小 田 公 良

Life History of *Coreana raphaelis flamen* Leech in Japan

By Kimiyoshi Oda

本種は日本では現在の所岩手県九戸郡野田村，下閉伊郡田野畑村及び普代村の三村より発見されておる珍蝶で，その生活史はまだ明らかにされておらなかった。筆者は昨年 (1953) 中原和郎先生の御推定により食草がトネリコである事をつきとめ，終令幼虫4頭を得，これを飼育し ♂1 頭を羽化せしめた[1]。又成虫活動後半期に野外の食樹から卵十数卵を得，本年はこの卵を孵化させて生活史を調べようと思ったが冬期の保存が悪かった為か孵化しなかった。そこで野外から幼虫を採集したが時既に遅く3令の終り頃になっていた。この様な訳で不完全な記録ではあるが参考の為に発表する次第である。

卵 (Fig. 1). 概形は団子型で上面中央は盛り上っており，精孔部は凹んでいる。卵の端部には沢山の凹みがあって，非常に凸凹な感じがする。卵の色は産卵して間もない時は美くしい乳白色であるが，日が立つに従って汚れ黄色味のある灰白色となる。直径 1.0mm 弱，高さ 0.6mm 位。

オ3令幼虫 所謂ワラジ型で，沢山の蟻が蜜腺等に訪れているのが目につく。体色が終令幼虫の様に濃緑色でなく，白黄色なので，背線等の紫赤色が非常に目立つ。食痕は不規則で，葉の中央に小孔をあけたり，側部より

(1) 中原和郎・小田公良：日本未記録のシジミチョウ．蝶と蛾，Vol. IV, p. 20 (1953).